

令和6年度以降入学者

森林環境科学教育コース

凡例 科目区分
 コア科目 アドバンス科 課題プロジェクト演習科目 演習科目 特別研究科目
 再掲は薄色で表示 コア科目 アドバンス科 課題プロジェクト演習科目 演習科目 特別研究科目

学修目標			修士1年				修士2年				博士1年				博士2年				博士3年				
区分	修士課程	学修目標 (博士課程)	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
D 実践	D-2. 複眼的な視点を持ち、多様な問題解決法を提案することができる。 D-1. 学際的知識を社会に還元する意欲を有する。	D-2. 複眼的な視点を持ち、多様かつ斬新な問題解決法を提案することができる。 D-1. 先進的・学際的な知識を社会に還元する能力を有する。	森林環境科学プロジェクト演習(1)	森林環境科学プロジェクト演習(1)	森林環境科学ティーチング演習(2)				森林環境科学演習 第二(1)				森林環境特別実験 (中間報告) (2)				森林環境科学特別講義 (博士論文研究) (5)						
			国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)								
C-2 総合・創造力 (評価・創造)	C-2. 現代科学、特に森林環境科学の様々な現象についての深い理解に基づいて問題点を見出し、生物学・化学・物理学・地学・数学・経済学の知識を統合して導かれた学際的知識を、科学的方法と論理的思考方法を駆使して、研究・開発に利用したり、実問題の解決策を提案することができる。	C-2. 現代科学、特に森林環境科学の様々な現象についての深い理解に基づいて問題点を見出し、生物学・化学・物理学・地学・数学・経済学の知識を統合して導かれた学際的知識を、科学的方法と論理的思考方法を駆使して、研究・開発に利用したり、実問題の解決策を提案することができる。	森林環境管理学(1)	森林資源管理学(1)	森林・林業の科学(1)	森林環境科学プロジェクト演習(1)	森林環境科学プロジェクト演習(1)	森林環境科学演習 第一(1)	森林環境科学演習 第一(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境特別実験 (中間報告) (2)				森林環境特別講義 (博士論文研究) (5)							
			国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)								
C-1 専門的能力 (適用・分析)	C-1. 生物学・化学・物理学・地学・数学・経済学を業務に必要なレベルで理解し、新規の開発に利用したり、計算、実験およびフィールド調査の結果を解析・評価して第三者評価に耐える形で解説できる。	C-1. 生物学・化学・物理学・地学・数学・経済学を業務に必要なレベルで理解し、新分野の開拓に利用したり、計算、実験およびフィールド調査の結果を解析・評価して第三者に評価される形で解説できる。	森林環境管理学(1)	森林資源管理学(1)	森林・林業の科学(1)	森林環境科学プロジェクト演習(1)	森林環境科学演習 第一(1)	森林環境科学演習 第一(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境特別実験 (中間報告) (2)				森林環境特別講義 (博士論文研究) (5)								
			国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)								
B 知識・理解	B. 生物学・化学・物理学・地学・数学・経済学に関する基礎的知識を理解し、説明することができる。	B. 生物学・化学・物理学・地学・数学・経済学に関する専門的知識について、新分野の開拓に応用できる程度に深く理解し、説明することができる。	森林環境管理学(1)	森林資源管理学(1)	森林・林業の科学(1)	山地防災学特論(1)	樹木生理学特論(1)	林業経済学特論(1)	森林計画学特論(1)	造林学特論(1)	森林生態水文学特論(1)	森林生産制御学特論(1)	森林環境科学特論第一(1, 隔年)	森林環境科学特論第二(1, 隔年)	森林環境科学特論(科目, 1, 隔年)	森林環境特別実験 (中間報告) (2)				森林環境特別講義 (博士論文研究) (5)			
			国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)								
A 主体的な学び・協働	A-2. 自分の考えを相手に正しく伝えるための情報処理能力、コミュニケーション能力を高め、周囲と協調し、共同して問題解決にあたるることができる。	A-2. 自分の考えを相手に正しく伝えるための情報処理能力、コミュニケーション能力、教育力、指導力を高め、リーダーとして問題解決にあたるることができる。	森林環境科学プロジェクト演習(1)	森林環境科学プロジェクト演習(1)	森林環境科学演習 第一(1)	森林環境科学演習 第一(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境特別実験 (中間報告) (2)				森林環境特別講義 (博士論文研究) (5)								
			国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)								
A 主体的な学び・協働	A-1. 自然科学、特に森林環境に関わる非専門領域を含む幅広い学問分野に関心を持って、自ら進んで問題に取り組むことができる。	A-1. 自然科学、特に森林環境に関わる非専門領域を含む幅広い学問分野に関心を持って、自ら進んで問題に取り組むことができる。	森林環境科学プロジェクト演習(1)	森林環境科学プロジェクト演習(1)	森林環境科学演習 第一(1)	森林環境科学演習 第一(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境科学演習 第二(1)	森林環境特別実験 (中間報告) (2)				森林環境特別講義 (博士論文研究) (5)								
			国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)				国際交流演習(UJ, H, U, V)(1.1.1.1)								
区分	修士課程	学修目標 (博士課程)	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
学修目標			修士1年				修士2年				博士1年				博士2年				博士3年				
課程の時期区分			修士1年				修士2年				博士1年				博士2年				博士3年				
アセスメント・プラン			「修士論文」の審査を、共通ルーブリックに基づいて実施する。また、修士研究発表後の学生の自己評価を行う。										博士論文中間報告会および博士論文発表において実施)：「博士論文」の審査を、共通ルーブリックに基づいて実施する。また、博士課程中間報告および博士論文発表後の学生の自己評価を行う。										